

学校法人永原学園
さんこう児童クラブ通信

令和8年9月発行

— 第6号 —

【三光幼稚園】

TEL:0952-31-0753

【さんこう児童クラブ携帯】

TEL:090-7430-1312

お弁当作り、お疲れさまでした(^-^)

長く暑い夏休みが終わりました。保護者の皆様におかれましては、毎日のお弁当作り、本当にお疲れ様でした。夏は食中毒や腐敗など気になることも多く、色々と工夫をされている様子が頭が下がる思いでした。

子どもたちは、宿題をこなすと好きな遊びをして時間を過ごしましたが、時々体育館で体をいっぱい使って遊ぶことでストレス発散をしていました。体育館に冷房が完備されたおかげで、本当に助かりました。(右写真)

5日は三光幼稚園60周年と三光保育園20周年の記念イベントとして、さんこうフェスを開催します。保護者の皆様も、保護者同士の同窓会的な気持ちで気軽に参加して頂けると幸いです。

9月の目標「元気に挨拶をしよう」

自分から元気に挨拶ができるよう、夏休みに皆で意識してきました(*^▽^*)小学校が始まってからも挨拶やお礼を通じて、自然と言葉でコミュニケーションをとることができるようにしていけたらと思います。

「気づいたら行動しよう！」

友達と遊んでいる時うっかりぶつかってしまった！歩いていたら友達のものが落ちていた。こんな時、何事もなかったようにする姿が多く見られます。その都度、ぶつかった時はわざとでなくても謝ること、落ちていたものに気づいたら拾うことなど、声を掛けています。繰り返し声掛けして自発的にできるように育みたいです。

【★たくさん遊んだ夏休み★】

皆で遊ぶ時間を設け、小学校の1時間分(45分)程度、製作したり遊んだりして同じ時間を過ごしました(*^▽^*)伝言ゲームや手裏剣的当て等、目的をもって取り組む時間はあっという間のようで、時間の経過に驚く子がたくさんいました♪



体育館では、皆で遊んだあと、お楽しみの自由時間♪長縄、バドミントン、バスケットボールにサッカー等、色々な遊びを楽しんでいました。



色々な経験をした夏の活動♪「明日は活動ある？」とおうちで尋ねるほど楽しみにしてくれた子が多かったと保護者の方に伺いました(*^▽^*)



プチ夏祭り♪ミニゲームをしたり、かき氷を食べたりして夏祭り気分を味わいました☆



9月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数
1年生	16	0	16	1
2年生	12	0	12	0
3年生	2	0	2	0
計	30	0	30	1

夢中になって自由に遊ぶ時間、皆で同じ活動をする中で夢中になる時間、それぞれに学びやよさがあると感じています。遊びを知ることによって普段の遊びに取り入れ、遊びの幅が広がったり、チームやグループを作ることによって色々な友達と交流して仲を深めるきっかけづくりになったりして、2学期からも児童クラブに楽しみをもって来られることに繋がってほしいです。

2学期が始まると、久しぶりの小学校で流れを掴み直すまで疲れやストレスが溜まる子がいるかと予想されます。気持ちに寄り添い、時には思いを代弁しながら関わっていきたいと思います。2学期もどうぞ、よろしくお願い致します。

「信頼できる大人の存在」

社会福祉学科 江口賀子

子どもたちの成長を見守る中で、「家族以外にも安心して関われる大人の存在」は、大切だと言われます。社会福祉学の中では、社会的支援ネットワーク（「支えてくれる人や関係性」）とも言われます。

子どもは、おうちの方や保育者との関わりを土台にしながら、少しずつ世界を広げていきます。その中で、親でも先生でもないけれど、自分のことを気にかけてくれる大人がいることは、大きな安心につながります。

たとえば、ふらりと現れては周りの人の気持ちをふっと軽くしてくれるような存在。いつも一緒にいるわけではないけれど、会うとほっとする、話を聞いてもらおうと元気になれる—そんな関係が、子どもの心をやさしく支えてくれるのだと思います。

先日、86歳で亡くなった父の初盆に、ひとりの青年がお参りに来てくれました。20歳になったその方は、5歳の頃、地域の公民館での活動で父たちが見守っていた子どもの一人でした。久しぶりの再会でしたが、そのつながりが今も続いていることに、あたたかい気持ちになりました。子どもにとって、「ここに行けば安心できる」「この人になら話してみたい」と思える場所や人があることは、自分の気持ちを整えたり、新しい一歩を踏み出したりする力になります。家庭や園とはまた少し違う、もうひとつの居場所があることで、心のバランスもとりやすくなるのかもしれない。

地域の中には、近所の方や親戚、習い事の先生など、さまざまな大人がいます。特別なことをしなくても、日々のあいさつやちょっとした会話が、子どもにとっての安心できるつながりになっていくこともあります。私たち大人も、肩の力を抜きながら、ゆるやかにつながっていけたらいいと思います。

子どもたちが「自分はひとりではない」と感じられるような関係が、これからも広がっていくことを願っています。